

《UPZ 5市町住民の安全確保に関する協定を締結しました》

4月20日、当社は、女川原子力発電所から半径30km圏内の緊急時防護措置準備区域*にあたる、登米市、東松島市、涌谷町、美里町および南三陸町（以下、「UPZ自治体」）と、情報連絡などの連携強化などにより、地域住民の皆さまの安全確保を図るため、宮城県の立会いのもと、「女川原子力発電所に係る登米市、東松島市、涌谷町、美里町及び南三陸町の住民の安全確保に関する協定書」を締結しました。

【協定書の概要】

・異常時の連絡

宮城県で震度6弱以上の地震発生、発電所内の全交流電源喪失状態の継続、原子炉除熱機能喪失事象の発生、原子炉施設の故障などにより原子炉の運転が停止したときまたは停止することが必要になったときなど、国への報告対象とされている事象などが発生したときは、直ちにその状況をUPZ自治体に通報連絡する。

・立入調査

UPZ自治体は、宮城県が実施する発電所への立入調査に際して、事前に宮城県の了解を得たうえで、職員を同行させることができる。また、同行において確認した事項に関し、宮城県を通じて当社に意見を述べるができる。

・適切な措置の報告

当社は、立入調査の結果、宮城県、女川町および石巻市より適切な措置の要求を受けた場合は、その内容をUPZ自治体に報告する。

・計画などに関する報告

当社は、宮城県、女川町および石巻市へ事前協議したときは、UPZ自治体に対し、すみやかにその内容を報告する。また、宮城県、女川町および石巻市より事前協議の回答を受け取ったときは、UPZ自治体に対し、すみやかにその内容を報告する。



協定書締結式の様子

*原子力施設からおおむね半径30km以内の範囲で、緊急時の防護措置を準備する区域（UPZ）

《16人の新入社員が配属されました》

平成27年度の新入社員16人を、当発電所の仲間として迎えました。

発電所、そして地域のこれからの担う人材として育ててまいりますので、よろしくお願いいたします。



《構内特別安全大会および点検記録不備に係る再発防止決起集会を行いました》

4月16日、「平成27年度 女川原子力発電所構内特別安全大会」および「地震後健全性点検記録不備再発防止決起集会」を開催しました。

当日は、発電所所員、協力企業社員あわせて約1500人が一堂に会し、ゼロ災害達成を誓いました。また、地震後の設備健全性確認点検の記録不備に係る再発防止対策について、確実な実施と品質保証活動のさらなる向上を目指し、一体となって取り組んでいくことを確認しました。



再発防止対策を確実に実施するため意識高揚を図った決起集会

女川原子力PRセンターからのお知らせ

「ローズガーデンフェア」開催!!

6月6日(土)から6月28日(日)まで、女川原子力PRセンターにて「ローズガーデンフェア」を開催します。

敷地内では、数十種類のバラをご覧いただけますので、お誘いあわせの上ぜひお越しください。



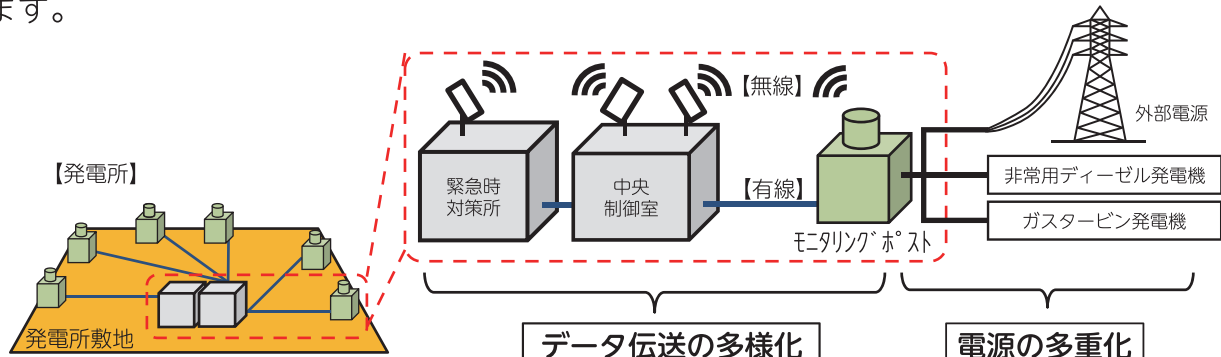
女川原子力PRセンター 0225-53-3410
開館時間/9:30~16:30 6月15日(月)は休館日

新規制基準適合性審査状況のお知らせ(4月末現在、審査会合43回開催)

《監視測定設備について》

発電所周辺の放射線量を監視・測定するモニタリングポストの設備については、重大事故などが発生した場合でも、機能を維持できるように電源の多重化やデータ伝送の多様化などの対策を講じることとしています。

4月2日(40回目)に実施された審査会合では、この内容に関して審査を受けています。



データ伝送の多様化

有線回線が使えない場合でも、無線回線により常時測定データを伝送

電源の多重化

外部電源を失った場合でも、非常用ディーゼル発電機やガスタービン発電機から電源を確保

使用できなくなった場合

《代替測定》

衛星回線によりデータ伝送を行う可搬型代替モニタリング設備で測定



【衛星回線】
(緊急時対策所へ)

可搬型代替モニタリング設備
(イメージ)

審査会合の詳細は当社ホームページをご覧ください。

東北電力 女川審査会合

検索

《消防訓練を実施しました》

1月から3月にかけて、発電所員約230人を対象に、初期消火訓練を実施しました。参加者は、消火器および消火栓を使った消火活動や防火服の装着訓練などを行いました。

また、3月24日にはタービン建屋内での火災発生を想定した消防訓練を実施しました。石巻消防本部および女川消防署の協力を頂き、約120人が参加し、発電所員で構成する自衛消防隊による初期消火活動や負傷者の搬送訓練を実施するとともに、消防署への的確な情報伝達などについて確認しました。



消火器と消火栓を使った訓練

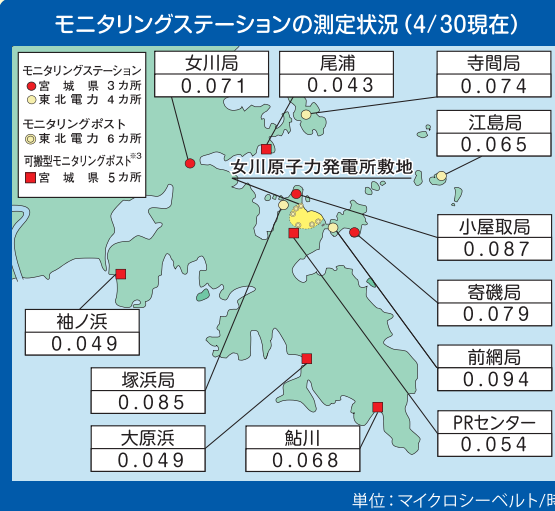


消防と合同で訓練を実施

《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト*1やモニタリングステーション*2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.062マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。



〈東北地方太平洋沖地震発生日〉	
平成23年3月11日	0.027~0.064
〈地震発生後最大値〉	
平成23年3月13日	1.8~21*4
〈地震発生以降毎年度(4/1)の値と至近値〉	
平成24年4月1日	0.063~0.098
平成25年4月1日	0.055~0.076
平成26年4月1日	0.046~0.065
平成27年4月1日	0.043~0.077
平成27年4月30日	0.043~0.062

- *1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、それ以降で最大値が測定された日(平成23年3月13日)の値、毎年度(4月1日)の値、至近の値を掲載しています。
- *2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。
- *3 宮城県では、震災により測定不能となっているモニタリングステーションの代替として、可搬型モニタリングポストによる測定を行っています。
- *4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。